

令和4年度 シラバス

愛媛県立大洲高等学校

教 科	理 科	科 目	生物基礎	学 年	2	類 型	I・II
単位数	2	教科書	改訂高等学校生物基礎		出版社	第一学習社	
副教材	最新図説生物(第一学習社)						

学習の目標	日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象への関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、生物学的に探究する能力と態度を育てるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を養います。
授業の概要	生物の多様性と共通性について理解する。生物や生命現象についての観察・実験・ディスカッションなどを行い、自然に対する関心や探求心を高め、生物学的に探究する能力と態度を養います。

	学期	単 元	教 材	学 習 内 容	評価の観点				
					①	②	③	④	
年 間 学 習 計 画	1 学 期	第1編 生物と遺伝子	第1章 生物の特徴	生物の多様性と共通性 細胞とエネルギー 光合成と呼吸	○	○	◎	◎	
			第2章 遺伝子とそ はたらき	遺伝子の本体の構造	○	○	◎	◎	
	2 学 期			遺伝子の複製と分配 遺伝情報とタンパク質の合成					
			第2編 生物の体内環境 の維持	第3章 生物の体内環境 体液とその働き 体内環境と維持のしくみ 生体防御	○	◎	◎	○	
	3 学 期	第3編 生物の多様性と 生態系	第4章 生物の多様性と 分布	植生と遷移 バイオームとその分布	○	○	○	◎	

※「評価の観点」欄の数字は、下記の評価の観点に対応しており、重点的に評価する項目に◎、評価する項目に○を付けている。

評価の観点及び評価規準			
① 関心・意欲・態度	② 思考・判断	③ 技能・表現	④ 知識・理解
・生物や生物現象に関心や探求心をもち、意欲的に取り組んでいる。	・生物や生物現象の中に問題点を見出して観察・実験を行っている。 ・分析的、総合的に問題点をとらえて科学的に判断している	・実験・観察の技能を修得している。 ・実験・観察や結果から導き出した考えを的確に表現できる。	・生物の多様性と共通性について理解する。 ・生物や生物現象に関する基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。
評価の方法			
定期考査に加え、実験、ディスカッション等への取り組み、提出物（レポート、課題、ノート等）、小テスト（単元テスト、課題テスト等）の成績などを総合的に評価します。また、平常の授業態度や発表の姿勢・内容、積極性等も評価の対象になります。			

令和4年度 シラバス

愛媛県立大洲高等学校

教 科	理 科	科 目	化学探究	学 年	2	類 型	I・II
単位数	2	教科書	「探求」2018年度版 理科学習資料	出版社	愛媛県高等学校教育研究会 理科部会		
副教材	改訂 ニューグローバル 化学基礎（東京書籍）						

学習の目標	- 化学基礎で身につけた、化学の基本的な内容を元に、化学的なものの見方や考え方を身につける。 - 化学の基本的実験操作について、その手法や理論を習得する。
授業の概要	1年で学習した化学基礎の内容を復習し、化学的なものの考え方や実験手法について深く学びます。 - 探求活動の進め方および化学実験の手法についての学習や実習を通じて、論理的かつ化学的な思考力を養います。

	学期	単元	教材	学習内容	評価の観点				
					①	②	③	④	
年間学習計画	1学期	第1編 探求活動の進め方	1 探求活動の進め方	1 テーマの設定 2 探求活動の展開 3 実験を行うにあたって (1) 実験室の整理・実験の準備 (2) 実験の心構え (3) 危険物の取り扱い (4) 実験の後始末 4 レポートの書き方・まとめ方	◎ ○ ○	○ ○	◎	○	
	2学期	第2編 実験および演習Ⅰ	1 化学の基本的な実験	1 基本操作 問題演習 2 混合物の分離 問題演習	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	
	3学期	第3編 実験および演習Ⅱ		3 成分元素 問題演習 4 三態変化 問題演習 5 同素体 問題演習 6 マグネシウムと塩酸の反応 問題演習 7 炭酸カルシウムと塩酸の反応 問題演習 8 物質の極性と性質 問題演習	○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○	

※「評価の観点」欄の数字は、下記の評価の観点に対応しており、重点的に評価する項目に◎、評価する項目に○を付けている。

評価の観点及び評価規準			
①関心・意欲・態度	②思考・判断・表現	③観察・実験の技能	④知識・理解
・自然の事物・現象に関心や探究心を持ち、それらを意欲的に探究しようとするとともに、科学的態度を身に付けている。 ・授業で学習した結果を元に発展的な興味を持って活動する。	・自然の事物・現象の中に問題を見だし、探究する過程を通して事象を化学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	・観察・実験を行い、基本的操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、事物・現象を化学的に探究する技能を身につけている。	・事前の事物・現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。 ・学んだ内容が関連付けて整理され、定着している。
評価の方法			
定期考査をもとに、観察・実験の態度や予想考察・器具の操作・まとめ、授業ノートでの、教科書・問題集の問題解答などを総合的に判断して評価します。			

